

第1問 次の文章を読んで問い（1～8）に答えなさい。

役に立たない読書

教養とはなんだろうか、インテリジェンスとはなんだろうか、まずそのところから考え始めるとしよう。

そもそも、「もの知り」であることは、インテリジェンスの **あ** ではありますが、 **い** ではない、ここを押さえておかないといけません。何も知らないで物事を考えることはできませんから、たとえば歴史や言語、また、日本人としての最低限の常識などはもっていて然るべきでしょう。そうした知識を、本を読むことで得られるのは事実です。したがって、多くの本を読んでいる人は、もの知りであるとは言える。しかし、ただ知っているだけ、つまり知識がただその人の脳細胞に記憶されているだけで、その精神になんの影響も与えていなければ、それは生きた知識ではありません。言い換えれば〔 A 〕になっていないのです。

あれも読んだ、これも読んだと多くの本を読んだことを①喧伝する人がいますね。「月に五〇冊は読みます」とか自慢する人、「一日に二冊ずつ読んでいる」などと豪語する人、もしかするとあなたの周囲にもいるかもしれません。

でも正直に言うと、そういう人に限って、あまり深みのない人物であったりします。むやみに読んだ本の量を自慢する、そういう読書は、インテリジェンスを涵養するのではなく、ペダントリー（pedantry：学問や知識をひけらかすこと）への道をつっ走っているように思います。「オレはもの知りだろう」と片々たる知識をひけらかすオジサンなどは、傍から見たらあられもなく感じられ、敬遠したくなりますね。

そうならないために、同じ読むなら、それがペダントリーではなくインテリジェンスへの道を行くようにしたいと、私は思うのです。

では、そうするにはどうしたらよいか。

まず大切なのは、「読んだ本の内容について考える」ことです。読書がその人の②エイチの形成に作用を及ぼすとしたら、それはたくさん読んだからではなく、本にまつわる「考える営為」のゆえである。だから大切なのは、考え考え読んでいくことなのです。

この考える営為は、読んでいる最中のみならず、読む前にも必要です。自分はいま何が読みたいのか、自分にとっていま何が必要なのか、ということをよくよく考えてから読み始めることが大切なのです。内的な契機のない読書に意味はないと私は考えています。

量を誇る「読書家」のなかには「キミは、こんな本も読んでいないのかね」などと、相手を威嚇する人がいます。

江戸時代中期の儒者三浦梅園は「学文は置き所によりて善悪わかる。臍の下よし、鼻の咲き悪し」と、なかなか洒落た教訓を残しています。同じ学ぶなら、その学んだ事、読んだ事を、ぐっと臍の下に置いておきたいものです。しかし、鼻の先に「〔 B 〕」をぶら下げた人物から、そんなふうに言われたほうはコンプレックスを感じ、読まねばならぬような強迫観念に襲われることがあるかもしれません。けれど、興味のない本を読んだところで、まあ、なにもなりません。その読書に費やした努力と時間は、結局無駄になります。

興味を持って読み始めた本でも、実際にはあまり意味がなかった、そういう無駄読みということも少なくありません。 **ア**、人生の時間は有限ですからできるだけ無駄は減らしたいものです。

そうすると、今読むべき本はなんなのか、いま自分にとって必要な知識はなんだろう

か、ということの日頃から思いめぐらして、それにしたがって読む本を選ぶというプロセスが、読書の前提条件として必要です。それなくして、ただ学校の課題図書だからとか、物知りオジサンから「読んでいて当然だ」と言われたとか、そういう外から与えられた情報のみで本を選ぶと、結局は自分の血肉にはならず、ペダントリーへの道に行くことになりがちです。

同じ時間を費やし、同じ努力をするなら、他人はどうあれ、自分にとって「心の栄養」となるような本を読んで、豊かなインテリジェンスへの道を行きたいものです。

(a)あるいは、一つの事象について、ちょっと別の側面から眺めてみたいという思いが、新しい分野への読書へ導いてくれるかもしれない。

(b)歴史の本であれ、昆虫の研究書であれ、自分の興味のある分野の本をまず一冊手に取ってみる。

(c)そこでまずは、自分が何に対してもっとも興味を感じるか、と考えるところから始めましょう。

(d)良い読書とはこのように、内的な契機から発展して、生きた知識が上積みされて好循環をなしていくものなのです。

(e)その本から一つでも新しいことを知ったり、面白いなあと感動したら、その本のなかで紹介されていたり引用されていたりする別の本を読みたいという欲求が出てくるでしょう。

(林望『役に立たない読書』より)

問 1 文中の・に入るものはどれか。最も適当な組み合わせを①～⑤の中から一つ選び、番号で答えなさい。 解答番号は

- ① あ：必要条件 い：前提条件
- ② あ：十分条件 い：絶対条件
- ③ あ：必要条件 い：十分条件
- ④ あ：前提条件 い：絶対条件
- ⑤ あ：十分条件 い：前提条件

問 2 文中の〔 A 〕・〔 B 〕入る語の組み合わせとして正しいものはどれか。①～⑤の中から一つ選び、番号で答えなさい。 解答番号は

- ① A：知恵 B：知識
- ② A：知恵 B：体験
- ③ A：知識 B：体験
- ④ A：体験 B：知識
- ⑤ A：体験 B：知恵

問 3 文中の①喧伝^{けんてん}の正しい意味はどれか。①～⑤の中から一つ選び、番号で答えなさい。
解答番号は

- ① 互いに近寄って親しく話し合うこと。
- ② 盛んに言いはやして、世間に広く知らせること。
- ③ 事実をそれ以上に大げさに言いふらすこと。
- ④ 事実を歪曲させて言いふらすこと。
- ⑤ 主義や考えを人々に説明して広めること。

問 4 文中の②エイチの正しい漢字の表記はどれか。①～⑤の中から一つ選び、番号で答えなさい。
解答番号は

- ① 永智
- ② 瑛智
- ③ 栄智
- ④ 叡智
- ⑤ 詠智

問 5 文中の に入る語はどれか。①～⑤の中から一つ選び、番号で答えなさい。
解答番号は

- ① しかし
- ② すなわち
- ③ まずは
- ④ あるいは
- ⑤ ところで

問 6 文中の に入る語はどれか。①～⑤の中から一つ選び、番号で答えなさい。
解答番号は

- ① ゆえに
- ② けれど
- ③ むしろ
- ④ または
- ⑤ つまり

問 7 本文末の(a)～(e)を、意味が通るように並び替えた場合、三番目に来る文は(a)～(e)のどれか。最も適当なものを、①～⑤の中から一つ選び、番号で答えなさい。
解答番号は

- ① (a)
- ② (b)
- ③ (c)
- ④ (d)
- ⑤ (e)

問 8 筆者は「インテリジェンス」とはどのようなものだと言っているか。最も適当なものを①～⑤の中から一つ選び、番号で答えなさい。 解答番号は

- ① 日本人として最低限の常識。
- ② 自分の血肉となっている生きた知識。
- ③ 読書家に指南された読書によって涵養されるもの。
- ④ 読書に費やした努力と時間に比例するもの。
- ⑤ 知識がただその人の脳細胞に記憶されているもの。

第2問 次の文章を読んで問い（1～8）に答えなさい。

私という迷宮

近代以前の伝統社会では、こんにちのような **A** はなかった。母のもとで暮らしていた子供は、ある年齢に達すると母親のもとから切り離されて、いくばくかの集団的な訓練を受ける。そして彼らは、子供としては死んで大人として再生することを **a 象徴** する、特別の儀式（通過儀礼）に参加する。この儀式を終えると、彼らは、そのまま大人として、共同体の成員になる。

しかし、近代化とともに、社会は複雑になり、社会の成員となるために身につけねばならない技能・知識は、しだいに **b 膨大** になってきた。それらを習得するには、長い時間が必要になる。こうして、「もはや子供ではなく、**①さりとして未だ大人でもない**」過渡期が長くなる。あいかわらず親に養育されていて、労働・納税・兵役の義務を **c 免れ** ている、という意味で、未だ大人ではない。しかし、家庭とべつところで、大人になるための技能・知識を身につけるよう、訓練を受けている、という意味で、もはや子供ではない。こうした、どっちつかずの「境界人」という不安定な時期が、「青年期」なのである。

しかし、「社会的な役割を表す言葉による自己確認」という意味での「**②アイデンティティ**」の確立が、青年期の課題とされるようになったとき、その背景には、出自と役割の分離という、近代化のもう一つの姿がある。近代以前の伝統社会では、出自（生まれ）によって、役割は自動的に決まった。小作農の家に生まれれば、自分もそのまま小作農という役割を引継ぎ、商人の家に生まれれば、そのまま商人という役割を引き継ぐ。このように生まれによって、引き受ける役割も決まる。伝統社会では、そうであった。しかし近代化とともに、職業の選択は個人の自由となり、宗教の選択も、政治的立場の選択も、個人の自由に **d 委ねられる** ようになる。出自と、引き受けるべき役割が、切り離されたのである。

こうなると青年期は、大人として必要な技能・知識を身につけるだけではすまなくなる。自分は、どの役割を、どう引き受けるのか。社会的な役割を表わす言葉を、どう組み合わせ、定義するのか。農民らしく、それとも職人らしく、……教徒らしく、それとも……、国民らしく、それとも……。どのような「らしさ」を、どのように組み合わせ、**「これが自分だ」**と名乗って出るのか？青年期とは、こうした選択を迫られる時期となったのである。

簡単におさらいする。近代化とともに、 **B** この二つが合わさって、個人の人生に「青年期」という階段が生まれ、「社会的な役割を表わす言葉による自己定義」が、青年期の課題となったのである。

現代社会は、近代化された社会である。したがって、いま見たような「アイデンティティの確立」が、青年期の課題であることに変わりはない。学歴・職業・宗教・**③コクセキ**・政治的立場のみならず、「男である、女である」という述語も、いまや生物としての性別から切断され、自由に選択される役割を表わすようになる。これもまた、役割と出自

の切断という **C** の延長線上の事象である。

しかし現代は、近代の延長だけでもない。近代の延長線上にありながら、近代の枠組みが、確実に、ゆるみ・**e 崩れ**はじめている。それとともにアイデンティティの問題も、少しずつズレはじめてもいる。近代のアイデンティティ概念は、いっさいから自由な個人、という観念を前提としていた。出自を問われることも（あるいは、すら）なく、自分の意のままに、自由に役割を選択する、自由な個人……。しかし、いまや、そのようにいっさいの絆を切って自由になったことが、**④一人の・取り替えのきかない個人であるということの土台を、ヒタヒタと浸食しつつある。**

(大庭健『私という迷宮』より)

問 1 文中の **A** に入る語句として最もふさわしいものはどれか。①～⑤の中から一つ選び、番号で答えなさい。 解答番号は **9**

- ① 儀式 ② 自己定義 ③ 社会の成員 ④ 青年期 ⑤ 役割の選択

問 2 文中の **a 象徴・b 膨大・c 免れ・d 委ねる・e 崩れ** の読み方としての正しい組み合わせはどれか。①～⑤の中から一つ選び、番号で答えなさい。

解答番号は **10**

	a	b	c	d	e
①	おんちょう	そうだい	あこがれ	おもねる	すたれ
②	しょうちょう	ぼうだい	まぬがれ	ゆだねる	くずれ
③	どんちょう	きょうだい	とらわれ	たばねる	やぶれ
④	しょうちょう	こうだい	おこぼれ	つらねる	うもれ
⑤	ぼうちょう	ひだい	まぬがれ	そこねる	くずれ

問 3 文中の **①さりどて** を言い換えたとき、最も適切なものを①～⑤の中から一つ選び、番号で答えなさい。 解答番号は **11**

- ① そうした背景から
② それにもかかわらず
③ **そうであるからと言って**
④ それに加えて
⑤ そのようにして

問 4 文中の②アイデンティティの正しい意味はどれか。①～⑤の中から一つ選び、番号で答えなさい。 解答番号は

12

- ① 自己同一化
- ② 自己顕示性
- ③ 自己正当化
- ④ 自己一貫性
- ⑤ 自己目的化

問 5 文中の

B

 には二つの語句が抜けている。

B

 に入る語句の組み合わせとして最も適当な語句を①～⑤の中から一つ選び、番号で答えなさい。

解答番号は

13

- ア. 社会的な役割を習得するための訓練期間が長くなったこと。
- イ. 子供が親に養育され、労働・納税・兵役の義務を免れること。
- ウ. 子供が通過儀礼を経て、大人としての共同体の成員となったこと。
- エ. 宗教や政治的立場の選択が、個人の自由に委ねられようになったこと。
- オ. 社会的な役割の選択が出自を問わず、個人の自由に委ねられるようになったこと。

- ① イとウ ② ウとオ ③ アとオ ④ アとエ ⑤ イとオ

問 6 文中の

C

 に入る語句として、最も適当なものを①～⑤の中から一つ選び、番号で答えなさい。 解答番号は

14

- ① 概念 ② 枠組み ③ 過渡期 ④ 観念 ⑤ 近代化

問 7 文中の③コクセキを漢字で表記したとき、正しいものはどれか。①～⑤の中から一つ選び、番号で答えなさい。 解答番号は

15

- ① 国席 ② 国籍 ③ 国積 ④ 国責 ⑤ 国関

問 8 文末に④一人の・取り替えのきかない個人であるということの土台を、ヒタヒタと浸食しつつあるとあるが、具体的にはどのような状態だと筆者は考えているのか。次の中に正しいものがいくつあるか①～⑤の中から一つ選び、番号で答えなさい。

解答番号は

16

- ア. 自由な役割選択ができるようになったことで、かえって自由な個人でありえなくなったこと。
- イ. 社会的な役割を表わす言葉による自己定義ができなくなること。
- ウ. 近代以前の確固とした個の自覚が持てなくなること。
- エ. アイデンティティの確立が出来なくなること。
- オ. 「これが自分だ」と名乗れなくなること。

- ① 一つ ② 二つ ③ 三つ ④ 四つ ⑤ 五つ

第3問 次の文章を読んで問い（1～8）に答えなさい。

近代合理主義の光と影

近代社会の基本原理は「合理主義」、あるいは「合理化」にあるということは、マックス・ウェーバーの指摘をまつまでもなく、明らかなことであるが、なおこれに関して二つの点が指摘されねばならない。一つは「近代合理主義」の精神がすぐれて西洋的なものであったとしても、「合理主義」ということばを広く解釈すれば、①それは十六、七世紀以降の世界全体を通ずる大きな傾向であって、西欧のみが、無知と蒙昧の暗夜の中にただ一つ光り輝く世界であったわけではないということである。神秘主義、直観主義、感性主義、あるいはやみくもな行動主義に対立するものとして、理性と悟性の尊重、人間の行動と社会の組織における論理と計画の重視等々を意味するものとして、「合理主義」という概念を理解すれば、それは西欧のみならず、近代において栄えた世界各国においても共通に見られたものであるとあってよい。宗教と（ア）マジユツからの解放を意味する「世俗化と脱（a）呪術化」ということは、近代社会の基本的特徴であるといわれるが、その限りでは、それは西欧社会にのみとどまる現象ではない。

たとえばわが国の江戸時代は、世俗化と脱呪術化の著しく進んだ時代であったといえる。キリシタン弾圧後、江戸時代において宗教は、完全に宗教としての力を失ってしまったということは、ほとんど異論のないところである。もちろん迷信や、宗教的慣習は残っていたけれども、江戸時代の支配階級である武士はほとんど宗教に依存するところがなかったし、また、その支配②イデオロギーである朱子学は、それなりに一貫した合理的な世界観に基礎づけられていたのである。江戸時代に、実験的自然科学はともかくとして、人文科学や数学の面で大きな進歩が見られたことは（イ）グウゼンではない。

また、中国の清帝国は十七世紀半ばより十八世紀末まで、^{こうき}康熙・^{ようせい}雍正・^{けんりゅう}乾隆三帝の時代を通じて空前の繁栄を誇ったが、その社会精神も、世俗的かつ合理主義的なものであった。科挙にもとづく官僚制は、システムとして完成の域に達し、ヨーロッパ諸国は文官任用試験の制度を中国から輸入したのである。清代の代表的な学問である考証学は、合理主義と批判的精神に貫かれていた。

したがって「合理主義」ということは、広い意味では、近代のいわば世界精神であったのであって、それは宗教的信仰が、七・八世紀から十五世紀ころまでの中世の世界精神であったのに対応しているのである。それゆえ、近代西欧社会の「合理主義」精神に対して、それ以外のすべての社会を支配しているものが、すべて「伝統主義、呪術主義」であるかのように説く一部の人々の議論は基本的に受け入れ難い。「暗黒の中世」という観念が誤りであることは、最近しばしば強調されているが、それと同じ意味で「③無知と蒙昧の非西欧」という観念も訂正されねばならない。

しかしながら、第二に近代西欧社会が、決定的なくつかの点で、非西欧社会、あるいは前近代社会と異なっていることは事実であり、そのことはいくら強調しても強調しすぎるといえることはない。それは産業資本主義の発展、民主主義的な市民社会の確立、自然科学とそれにもとづく技術の発達である。そうしてそれによって近代西欧社会は、史上かつてないエネルギーを**(b) 噴出**させ、世界を、たんに力によってだけでなく、思想的・文化的にも支配するようになったのである。そういう意味で近代は、「西欧の時代」であった。そうしてこのような近代西欧社会を支えたものが**④合理主義一般とは区別されたものとしての「近代合理主義」であった**。「近代合理主義」の特徴は、一つにはその能動的、積極的、徹底的性格にある。すなわちそれは、宇宙の体系的理解、人間社会の組織化、人間による自然の征服において、論理的首尾一貫性をあくまでも押し通そうとするものである。合理主義的態度一般のなかには、理性の尊重とともに、その限界を容認し、「世の中には理屈に合わないこともある」ことを受け容れようとする面もふくまれている。しかし「近代合理主義」は、そのような理性の限界を容認しない。もし「理論に合わない」現実が存在するとすれば、それはより高次の理論によって説明されねばならない。人間社会の「不合理」や自然の人間に対する「不条理」は正されねばならないというのが、近代合理主義の姿勢であり、そういう意味で、それは戦闘的合理主義であるといえることができる。

このような態度は、必ずしもつねに真に「合理的」な結果を生むとは限らない。理論に合わない現実には、「まちがったもの」として無視され、「あり得ないこと」として、その存在が否定されるということになりがちである。また、人間や自然に対する行動を、早まって過度に「合理化」することは、予期しない失敗と、損害をもたらす危険性も少なくない。

しかしながら、このような近代合理主義の徹底性が、普遍的な真理追及への情熱、そしてその具体的な表現としていつでも適用できるものとしての形式的な法則確立への努力、そしてその応用として、人間社会と、経済および技術の、形式的ルールによる組織化を生み出したのである。それが西欧の世界支配をもたらした強大な力を作り出したことはいままでのない。

(竹田啓『近代合理主義の光と影』より)

問 1 文中の**(ア) マジュツ**を漢字で表記したとき、正しいものはどれか。①～⑤の中から一つ選び、番号で答えなさい。

解答番号は

- ① 摩術 ② 磨術 ③ 魔術 ④ 痲術 ⑤ 麻術

問 2 文中の**(イ) グウゼン**を漢字で表記の正しいものはどれか。①～⑤の中から一つ選び、番号で答えなさい。

解答番号は

- ① 寓然 ② 隅然 ③ 厲然 ④ 遇然 ⑤ 偶然

問 3 文中の (a) **呪術** の読みと意味の組み合わせとして最もふさわしいものはどれか。
 ①～⑤の中から一つ選び、番号で答えなさい。 解答番号は

	読み	意味
①	じゅじゅつ	ありもしない幻覚を見せる術
②	じゃじゅつ	意図的に他人に災いを及ぼすための呪い
③	じゅうじゅつ	死者を操り、使役する術
④	じゅじゅつ	超自然的な存在に働きかけ願望をかなえようとする行為
⑤	ようじゅつ	人の目をくらまして、不思議なことをやって見せる術

問 4 文中の (b) **噴出** の読みと意味の組み合わせとして最もふさわしいものはどれか。
 ①～⑤の中から一つ選び、番号で答えなさい。

解答番号は

	読み	意味
①	あんしゅつ	工夫して考え出すこと
②	ふんしゅつ	狭いところから勢いよく吹き出ること
③	けっしゅつ	優れて目立つこと
④	ふんしゅつ	内部のものがもれ出てくること
⑤	たくしゅつ	他に抜きん出て優れていること

問 5 文中の①**それ**は何を指しているか。最もふさわしいものを①～⑤の中から一つ選び、
 番号で答えなさい。 解答番号は

- ① 近代社会
- ② 「近代合理主義」の精神
- ③ 「合理主義」
- ④ 論理と計画の重視
- ⑤ 「合理主義」という概念を理解すること

問 6 文中の②イデオロギーの意味として、最もふさわしいものを①～⑤の中から一つ選び、番号で答えなさい。 解答番号は

22

- ① 社会のあり方に対する考え方、人の行動を左右する考え方や信条
- ② 特定の思考・世論・意識・行動へ誘導するための宣伝活動
- ③ 大衆からの人気を得ることを第一とする政治思想や活動
- ④ 個人の自由や多様性を尊重するさま
- ⑤ 20世紀にあらわれた、全体主義的独裁の思想・運動・体制

問 7 文中の③無知と蒙昧の非西欧について、ここで言われている「無知と蒙昧」の説明として最も適当なものを①～⑤の中から一つ選び、番号で答えなさい。

解答番号は

23

- ① 自己犠牲の精神にとらわれていること
- ② 迷信や偏狭な信仰にとらわれていること
- ③ 経験知を無視すること
- ④ 伝統を重んずる民族主義に支配されていること
- ⑤ 世俗的なものにとらわれていること

問 8 文中の④合理主義一般とは区別されたものとしての「近代合理主義」であったについて、ここで言われている「近代合理主義」の説明として最も適当なものを①～⑤の中から一つ選び、番号で答えなさい。 解答番号は

24

- ① 倫理と計画を重視すること
- ② 直観主義・神秘主義・呪術主義を否定すること
- ③ 社会のルール化により規律を一元化すること
- ④ 不合理・不条理なものを認めないこと
- ⑤ 理性と悟性を尊重すること

問題 1 ②

問題 2 ⑨

問題 3 ⑤

問題 4 ④

問題 5 ⑩

問題 6 ③

問題 7 ⑧